

地域で広げる特別支援教育 I C T 活用プロジェクト

～ i T a b 塾で繋がろう・深めよう～

タブレット端末 教員研修

あいちタブレット端末活用研究会 (iTab研)

〒444-0802
愛知県岡崎市美合町並松1-51 愛知県立みあい特別支援学校内

<http://www.facebook.com/teampp.since2011/>

1. 研究の背景

2010年に登場したタブレット端末は、教育現場にも急速に広がりを見せている。文部科学省が2015年秋に発表した資料によると、公立学校へのタブレット端末の整備台数は156,018台と、昨年の倍以上になっている(図1)。特別支援教育においてもタブレット端末は、大きな注目を浴びており、導入を検討している学校も多い。導入にあたって予算的な問題だけでなく、管理の方法、教師の力量、スキルが課題に挙げられることがある。新しいツールであるタブレット端末を利用した授業の具体的なイメージが持てずに利用に躊躇したり、身近に相談する相

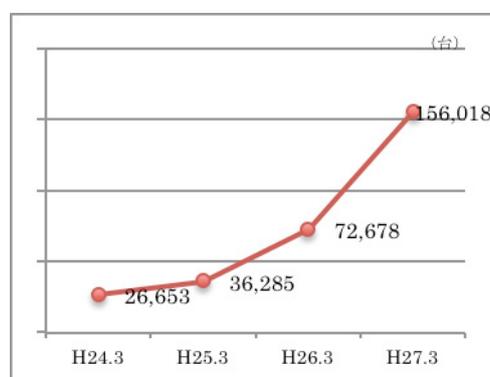


図1 公立学校へのタブレット端末の整備状況

手がおらず十分な活用に至っていないかったりする例も多い。そこで、タブレット端末の利用について教員が気軽に学んだり相談したりできる場や現場にすぐに役立つ情報が必要であると考えた。

本研究チームの前身である「PP団(パナソニック教育財団助成研究プロジェクトチーム)」は、愛知県立みあい特別支援学校において平成23年度に結成したチームである。みあい特別支援学校では、平成23年度、24年度の2年間に渡りパナソニック教育財団の助成を受け、タブレット端末の活用に関する研究を行ってきた。26年度からは、就学奨励費を利用し高等部1年生全員にタブレット端末を購入し活用しており、県内外からの見学者や問い合わせも多い。

そこで、これまでの活動で得たノウハウを生かし、学校の枠を超えた地域での活動に発展させたいと考え本研究を設定した。単発のセミナーではなく、少人数で継続的に共に学ぶ学習会を開催することで、地域のICT活用推進のネットワークを築ければと考える。地域の教員と共に学ぶ中で、情報交換やディスカッションを行い、特別支援教育でのICT活用促進に寄与したいと考えた。

2. 研究の目的

本研究は、地域の特別支援教育におけるタブレット端末をはじめとしたICT活用推進を図るものである。具体的な目標は以下のとおりである。

- (1) 地域でのICT活用に関する教員間のネットワークを構築する。

(2) 地域の特別支援教育に携わる教員の I C Tに関するスキルアップに貢献する。

3. 研究の方法

- (1) 地域の特別支援学校の情報担当職員に呼びかけ、「あいちタブレット端末活用研究会」を組織する。組織間の情報交換には SNS を活用する。
- (2) 小規模の学習会 (iTab 塾) を年間6回、専門家による講演会 (スーパー iTab 塾) を1回実施する。
- (3) 要請のあった学校に出向き研修会 (iTab 出前塾) を開催する。
- (4) SNS を通じてタブレット端末に関するアプリ、教材等に関する情報発信をする。また、それらを電子書籍にまとめ配布する。

4. 研究の内容・経過

(1) 組織編成について

愛知県立みあい特別支援学校、愛知県立岡崎盲学校、愛知県立くすのき特別支援学校、愛知県立安城特別支援学校、愛知県立三好特別支援学校の5校から14人のメンバーを組織した。活動に関する情報交換や連絡は Facebook の非公開グループ内で行った。

(2) iTab 塾について

Facebook (<https://www.facebook.com/teampp.since2011/>) で開催告知を行い、募集は、ウェブサイト「こくちーず Pro^{*}」を利用した。会場は、交通の利便性を考慮し、4つの会場を利用した (図2)。内容は、基本操作や教材制作で利用されることの多いアプリを体験するワークショップを中心とした。タブレット端末を所有していない者も参加できるよう、貸出用のタブレット端末を用意した。各回の実施内容等は表1のとおりである。

スーパー iTab 塾は、夏季休業中に NPO 法人支援機器普及促進協会理事 高松崇氏を迎え「特別支援教育で活かすタブレット端末ー本当にタブレット端末の必要があるの?～」と題した講演会を行った。参加者78名のうち約60%が特別支援学校教員であったが、約30%は小中学校特別支援学級担当者であった。



図2 iTab 塾の様子

表 1 iTab 塾実施状況

回数	期日	会場	参加数	内容
第1回	6月20日(土)	刈谷市 産業振興センター	30	<ul style="list-style-type: none"> ・学校での活用事例紹介 ・端末の管理方法 ・ワークショップ(教材作成) ・アプリ紹介
第2回	7月29日(土)	愛知県立 みあい特別支援学校	30	<ul style="list-style-type: none"> ・学校での活用事例紹介 ・教材制作体験 ・iBooks, iTunesUの活用について
第3回	9月5日(土)	刈谷市 産業振興センター	43	(外部講師) <ul style="list-style-type: none"> ・アプリ Fingerboard の使い方 ・教材作成
第4回	10月10日(土)	ウインクあいち	24	<ul style="list-style-type: none"> ・iPadの基本操作 ・スライドショー作成体験 ・アプリ Keynote を使った教材制作
第5回	11月7日(土)	AppleStore 名古屋栄	30	(外部講師) <ul style="list-style-type: none"> ・iPadの機能について ・アプリ GarageBand を使った楽曲制作
第6回	2月20日(土)	AppleStore 名古屋栄	20	(外部講師) <ul style="list-style-type: none"> ・アプリ iMovie を使った動画編集
スーパー	8月8日(土)	ウインクあいち	76	・外部講師による講演会
合計	全6回	4会場	253	

(3) iTab 出前塾について

出前塾についての紹介は、校長会を通じリーフレットを各学校に配布した。夏季休業中に要請があった特別支援学校へ出かけ研修会を行った(図3)。事前に打合せを行い各校のニーズに合わせてワークショップの内容を構成した。また、2月には隣接する市の教育研究集会の講師を務めた。



図 3 iTab 出前塾の様子

(4) 情報発信

P P 団として運用していた SNS 「Facebook」 を iTab 研として引き継ぎ情報発信を行った。アプリの紹介の他、楽しみながらタブレット端末の基本操作が学べるワークショップ用資料等を公開した(図4)。



図 4 アプリ紹介とワークショップ資料

5. 研究の成果

(1) 学習会について

スーパーiTab 塾(講演会)を含めた全7回の iTab 塾には延べ 253 名の参加があった。複数回参加した者も多く、実人数は 125 名である。4回以上参加した方が16名と予想以上に多く、関心の高さが伺えた(図5)。

図6は、第1回から第4回までの iTab 塾、スーパーiTab 塾の事後アンケート(アンケート回収率 86.5%)の結果である。内容については、「満足」と「ほぼ満足」が多数を占めている。また、自由記述では、以下のような意見を得た。

- ・少人数で何度も学習会を開くというコンセプトがいいですね。
- ・新しい発見、使い方がわかりとても勉強になりました。
- ・操作がわからなかったアプリの使い方がわかった。教材を作ってみます。

これらのアンケート結果から学習会 iTab 塾は概ね好評であったと考えている。

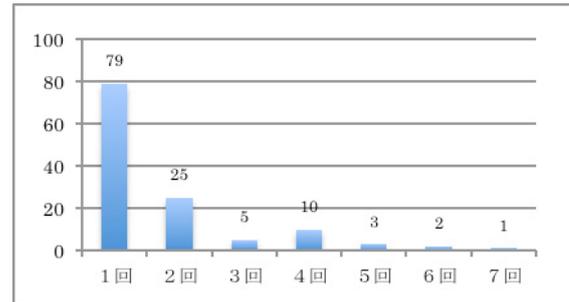


図5 iTab 塾参加回数

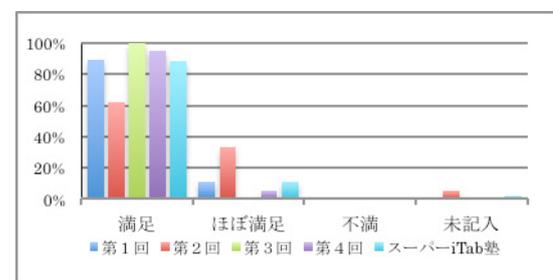


図6 アンケート結果

(2) 情報発信について

Facebook では、iTab 研のページについて 985件(2月23日現在)の「いいね」を得ている。iTab 塾の告知には、15,835 件の閲覧があり、会の様子を伝えるページにも1万件を超えるアクセスがあった。図7は、6月から2月の間の投稿の閲覧数である。8月に初心者向け iPad 基本操作ワークショップ用資料や「オススメ教材制作アプリ一覧」の公開を行った際に閲覧数が急増しており、こうした情報が求められていることがわかった。

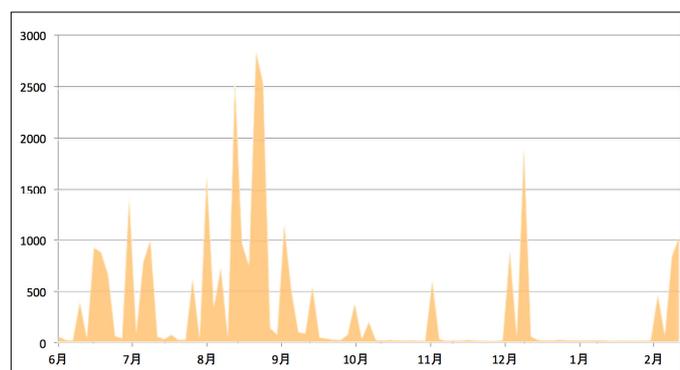


図7 Facebook ページの閲覧数

6. 今後の課題・展望

学習会 iTab 塾には予想以上の反響があり、手応えを感じることができた。タブレット端末操作初心者ターゲットにした学習会は、授業でタブレット端末を使うことに不安を感じている教員のはじめの一步を後押しできたように思う。また、特別支援学校教員だけでなく、特別支援学級担当者、アプリ開発者、保護者など様々な立場の方の参加があり、有意義な情報交換ができた。

一方、日進月歩の勢いで進化する端末の機能に、提供する情報が追いつかないこともあった。OS のバージョンが変わると操作方法が変わる場合もあり、用意したワークショップ資料を作り直すこともあった。常に最新の情報を提供するには、教員のみでは難しいかもしれない。そういった意味で第5回、第6回の iTab 塾が企業との連携で開催できたのは大きな収穫であった。企業と連携を取ることで端末の導入やメンテナンスについて専門的な助

言を得ることができた。こうした連携を今後に繋げていきたい。

7. おわりに

本研究では、Semiosis 株式会社、NPO 法人支援機器普及促進協会、AppleStore 名古屋栄の皆様に御協力をいただいた。専門家との連携は今後ますます重要になってくるであろう。また、学習会に参加していただいた方々とも互いに情報交換をしながら、今後も地域の特別支援教育におけるICT活用に貢献できればと思う。

* こくち一ずPro <http://www.kokuchpro.com>